

令和7年度 総合型選抜 経済経営学部 小論文
出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

本問題は、解答の前に行われたインプット講義の内容を踏まえて主題された問題である。本年度は、若年世代の女性における人口流出に着目した。特に地方圏においては深刻である。たとえ出生率が高くても、その母体となる出産適齢期の人口が減少すれば、出生率の低下を引き起こし、結果人口の増加が見込めない。もちろん、地方自治体も手をこまねいているだけではなく、子育て支援や婚活支援、移住支援など様々な手を打ってきた。しかし、それらが大きな成果をあげているとは言い難い。こうした社会状況が起きる要因の一つに性別による役割分担が挙げられる。インプット講義では、歴史的背景を紐解きながら、性別による役割分担の変遷や現代的課題、さらに若年女性流出を防ぐ地方自治体の具体的事例が提示された。その上で、①講義内容をしっかり聞き取り理解できているか、②インプット講義を踏まえ、自身の経験や知識を用いたアイデアを表現することが出来ているか、この2点を問うた。

【解答の傾向】

全体的な傾向として、日頃から社会で起きている事柄（時事）や社会課題に関心を持ち考えているかどうかで、解答に個人差が見られた。①の点では、講義内容を理解し、網羅的に整理できている者と印象に残った（あるいは自分が知っている）事柄のみを記載する者との、質・量ともに個人差が見られた。②については、自身の経験や身の回りで起きたことや日々のニュースからから着想を得て解答してくれた者もいたが、インプット講義の内容を理解しておらず、思い込みで解答する者、何を問われているかを理解せずに解答している者など、ここでも個人差が見られた。

地域社会が抱える課題は一つではなく、様々な要因が絡まり表出する。ゆえに解決方法も一つではない。日頃から社会で起こる多様な事柄に関心を持ち日々考えてきたか、広い視野で物事の因果関係を理解し、俯瞰的に捉えることができるかがよりよい解答のポイントであったと言えよう。